

大阪駅北地区のネーミングの 実施に向けて

①地域開発のネーミング事例

地区名	区域面積	ネーミングの時期
大阪アメニティパーク (OAP)	約6ha	まちびらきの約5ヶ月前
東京ミッドタウン	約8ha	まちびらきの約1年半前
六本木ヒルズ	約11ha	まちびらきの約3年前
神戸ハーバーランド	約23ha	土地区画整理事業の都市計 画決定の約1年前
大阪ビジネスパーク (OBP)	約26ha	土地区画整理事業認可の約8 年前
汐留シオサイト	約31ha	まちびらきと同時
みなとみらい21	約186ha	土地区画整理事業の都市計 画決定の約1年半前

②ネーミングの対象区域

	メリット	デメリット
先行開発区域(7 へクタール)	<ul style="list-style-type: none">・まちの姿が見えており、名称がイメージしやすい。・先行開発区域と2期開発区域ごとの特性を踏まえたネーミングが可能。	<ul style="list-style-type: none">・先行開発区域の開発イメージにとらわれ、広がりのない名称になる恐れがある。・北地区全体としての一体性に欠ける恐れがある。
全域(24 へクタール)	<ul style="list-style-type: none">・全域をネーミングすることで、一体的なまちづくりの方向性を打ち出すことができる。・先行開発区域と2期開発区域の各々のナレッジ・キャピタルのテーマを踏まえた全域としてのネーミングが可能。	<ul style="list-style-type: none">・2期開発の具体的なまちのイメージは今後、形成されるので、現段階ではイメージしにくい。・2期開発の土地利用の方向性を規定する恐れがある。

③今後の進め方

○対象区域について

先行開発区域(7ha)を対象とする

(但し選定された名称が、ふさわしいものであれば、全域の名称とすることも考える)

○実施方法について

- ・本協議会として名称の選定を行う
- ・その企画、実施の実務全般は関西経済連合会・都市再生機構・大阪市の3者が担う